

ひろしまの遺跡

第115号

福島時代の石垣？ ～石垣に刻印！～

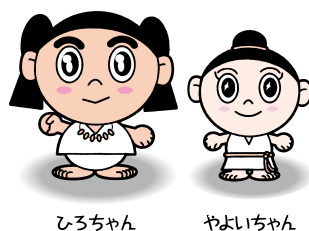
亀居城関連遺跡 第2次調査（大竹市小方）



発見された石垣（南東から）

亀居城関連遺跡では、上の写真のように石垣を発見しました。使われた石には、石を割るときのノミの跡である矢穴^{やあな}と呼ばれる凹みや「○」、「△」、「□」などの模様を刻んだ「刻印」^{こくいん}（ P.5 考古学アラカルト 参照）が数多く見られました。

石の積み方や特徴が本丸などのものと共通することから、この石垣は、福島正則が江戸時代初頭に築城した亀居城の一部である可能性が高いと考えられます。

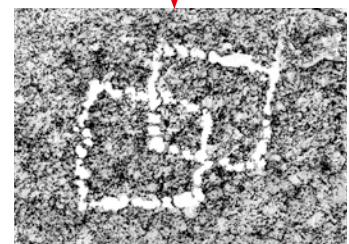


ひろちゃん

やよいちゃん



刻印



「□」を重ね合わせています。

発掘調査速報

かめ いじょう
亀居城関連遺跡 (第2次調査) (大竹市小方)

調査期間 平成27年5月18日
～平成28年1月22日

亀居城関連遺跡は、江戸時代初めに福島正則の命令によって築城された亀居城の南東にあたり、東は海、西は亀居城のある山に挟まれた西国街道に沿った町屋跡です。遺跡は、街道の両側に拡がっており、昨年度は山側を調査し、大規模な火災を受けた近世の町並みを確認しました。今年度は、昨年度の続きの山側と海側及び亀居城の郭（くるわ）である妙現丸みょうげんまるの調査を実施しました。

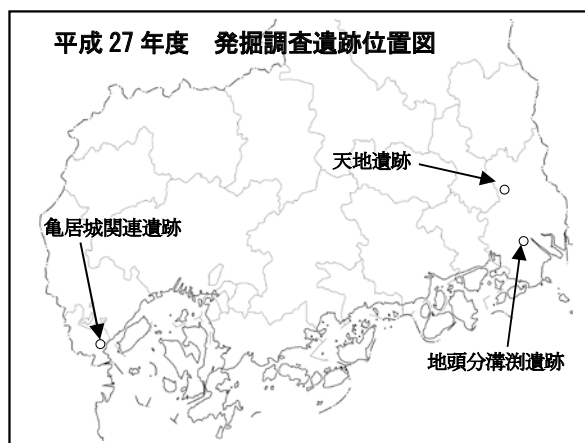
発掘調査の結果、海側の調査区のうち最も北側で石列を確認しました。長さは14mで、北端は直角に折れてL字状になり、南端は調査区外へ延びています。直角の部分が石の長い面と短い面を交互に重ねる「算木積」（さんぎつみ）になっていたと考えられることなどから、石列の上には石が積み上げられ石垣になっていたと推定できます。

石列の南側の調査区からは、長さ12m、高さ3mの石垣を確認しました。この石垣も調査区外へ延び、特に北端は石列南端に接すると考えられます。この位置関係から、石垣と石列は一連のものと推定でき、亀居城が築城された頃のものである可能性が考えられます。

山側の調査区からは、赤く焼けた土や炭化物の堆積層や建物の区画を示す石列、石垣、井戸、貯蔵穴と思われる穴等を検出し、昨年度の調査で確認した火災を受けた町屋跡の続きと考えられます。

また、町屋跡から西側の調査区でも石垣を確認しました。石の特徴や積み方が北側の調査区の石列や石垣と共通していることから、同時期のものと考えられます。さらに、妙現丸の調査区からも石垣の石材を確認しました。

(恵谷 泰典)



亀居城関連遺跡 空中写真
妙見丸 (左上○), 石列 (右上○), 石垣 (右下○)



検出した石列
槽（やぐら）の基礎の可能性があります



火災の痕跡
地面が焼け、炭化物が見えます



じとうぶみぞぶち

地頭分溝渚遺跡（福山市瀬戸町）

調査期間 平成27年5月11日

～平成28年1月26日

地頭分溝渚遺跡は、福山市瀬戸町地頭分に位置し、北流する瀬戸川に面した丘陵の緩斜面に立地しています。

発掘調査の結果、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、性格不明遺構、柱穴群などを検出しました。遺物は、土器（弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・陶磁器など）や瓦、鉄製品（刀子・蔵戸鍵・鉄釘など）、石製品（敲石・砥石など）が出土しており、包含層の遺物には須恵器の円面硯^{えんめんけん}や瓦質土器の香炉もみられます。

竪穴建物跡は直径約6mの円形で、弥生時代後期の土器や石器類が出土しています。掘立柱建物跡は2棟で、柱穴の一部に根石をもつものや山側に溝を有するものがみられます。さらに、土師質土器の小皿や碗がまとまって

出土した土坑、内部に石列や大量の小礫を詰めた暗渠と推定される遺構、床面の土坑から鉄製品と多量の炉壁片が出土した性格不明の建物跡などもあり、長きにわたって人々が暮らした様子が窺えます。

瀬戸町は草戸千軒町遺跡の後背地に当たり、町内に残る「長和」・「地頭分」・「別所」などの地名から、中世荘園である長和荘の一部と推定されています。本遺跡も、草戸千軒町遺跡や長和荘と併行する時期（鎌倉～室町時代）の土師質土器が多く出土しており、中世を中心とした集落跡と考えられます。古墳時代中期の須恵器、平安時代の土師器、出土例の少ない円面硯、香炉、輸入陶磁器（青磁・白磁）なども出土しており、遺跡の発掘調査がほとんどなかった当地域の貴重な資料となりました。今後、遺構・遺物を整理し、集落跡の時期や性格、草戸千軒町遺跡・長和荘との関連を検討していきます。（山澤 直樹）



空から望む地頭分溝渚遺跡



土坑の片隅から出土した土師質土器群



円形の竪穴建物跡



溝を有する掘立柱建物跡



てんじ 天地遺跡(第2次調査)(福山市新市町)

調査期間 平成27年8月31日
～平成28年1月22日

天地遺跡は新市町の北部・常金丸地区に位置しています。本年度の調査区は南東方向に延びる尾根の頂部と西側斜面で、尾根の頂部では多くの遺構を確認しました。主に弥生時代後期の遺構や中世の遺構があります。

弥生時代後期の遺構は、竪穴建物跡2軒、貯蔵穴9基などがあります。竪穴建物跡は2本柱の隅丸方形と4本柱の円形建物跡があります。貯蔵穴は円形状で、壁が垂直のものや底面が広がって断面がフラスコ状になるものがあります。その他、尾根頂部の南西縁辺部の土坑で弥生土器片とともに板状鉄斧が出土しました。

中世の遺構は、土坑墓40基からなる集団墓、集石6か所などがあります。土坑墓はいずれも素掘りで、長方形や長円形のものがあります。また、土坑墓の内部や上部に礫を伴うものと全く伴わないものがあります。いくつかの土坑墓で鉄釘・鎌・刀子・古銭などが出土したほか、8基の土坑墓内で人骨や歯が遺存していました。集石は土坑墓周辺や西側斜面南部で確認しました。集石周辺では焼けた骨片が出土しています。

遺物は弥生土器を中心に須恵器・土師器・土師質土器・陶器・鉄製品（鉄剣・刀子・鉄斧・鎌・やりがんな・釘・性格不明鉄器）・古銭・五輪塔部材などが出土しました。

第1次調査では古代の集落跡が確認されましたが、本年度の調査の成果では、遺跡は弥生時代から古代にかけて断続的に集落が営まれ、中世に集団墓地に変わったことがわかりました。
(唐口 勉三)



尾根頂部の遺構の様子（北西から）



弥生時代の竪穴建物跡（北西から）



土坑墓の集合写真（東から）



人骨が出土した土坑墓（北西から）

考古学 アラカルト 46

近世城郭の石垣の刻印

近世の城跡の石垣をよく見ると、使っている石材の表面に加工された痕とは別に記号のようなものが刻んであることがあります。しかも、この記号のようなものはどの石にもあるわけではないようです。

これらは「刻印」と呼ばれています。刻印は文字どおり石材に刻まれた印（マーク）です。石材の表面にノミを使って点や線で幾何学的な模様を表現しているものが多くあります。

それらは、①点を繋げたもの、②点に加えて点と点の間を線でつないだもの、③さらに線が点と同じくらい深くなって、線で構成されたように見えるものがあります。

下に示した写真や拓本は、今年度調査を行った亀居城関連遺跡で発見された石垣の刻印です。

- A. 丸を線刻で表現したもの
 - B. 丸に十文字を線刻したもの
 - C. 十文字に線刻が交差しているもの
 - D. 三角形を入れ子にしたもの
 - E. 丸の中に縦線を線刻したもの
 - F. 三角形の中央部に十文字をいれたもの
- など多様な文様が存在します。

これらの刻印は亀居城のほか広島城の石垣にもあり、両者の間に何らかの関係があったことを示しているようです。

ではこれらの刻印は何を意味するのでしょうか。また、どうして付けられたのでしょうか。

これに関しては、石材を切り出したところの印、石垣工事の工区の目印、工事を請け負ったところの印等諸説があります。

亀居城関連遺跡で見つけた石垣の刻印についてはいろいろな刻印が比較的近くに配されていることなどから、石材を切り出したところの印である可能性が高いと想定できます。

今度城跡の石垣を見る機会があったら、探してみたいかがででしょうか。いつもと違う発見があるかもしれません。（辻 満久）



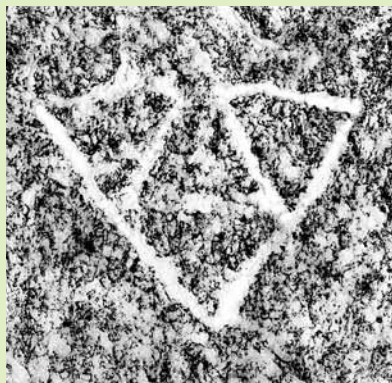
A. 丸を線刻



B. 丸に十文字を線刻



C. 十文字に線刻が交差



D. 三角形が入れ子



E. 丸の中に縦線を線刻



F. 三角形の中央部に十文字

Rail and Bus & てくてくツアー(後編)

第3回 倉橋島鹿老渡の古墳と 長門の造船歴史館 & 10月24日

潮待ちの港として栄えた倉橋島の鹿老渡では、商家の名残を残す宮林家で昼食後、干潮でなければ渡れない岩場を越えて、海辺の山腹にある岩谷古墳を訪れました。その後桂浜に移動し、遣唐使船に関わる造船歴史館を見学しました。

岩谷古墳への道はかなり険しいものでしたが、参加者どうし互いに助け合ったことで一体感が生まれました。桂浜の万葉歌碑から見た瀬戸内の夕日は忘れられない思い出となりました。

岩場をつたって
岩谷古墳へ



倉橋島桂浜
万葉歌碑の前で

第4回 安芸高田市歴史民俗博物館と 甲立古墳 11月14日

毛利元就ゆかりの郡山城のふもとにある元就の墓所と安芸高田市歴史民俗博物館を訪れました。博物館では郡山城周辺の山城の企画展を見学し、復元された甲立古墳の家形埴輪を目にすることができました。

その後甲立古墳に向かい、発掘当時の状況の説明を受けました。あいにくの雨の中での見学となりましたが、熱のこもった解説に参加者の皆さんが雨をものともせず熱心に耳を傾けていた姿が印象的でした。

安芸高田市
歴史民俗博物館にて



雨の中での
甲立古墳見学

ひろしま考古学講座Ⅳ

今年度は“発掘から推理する”をテーマに全6回の考古学講座を開催しました。各講座では、県内で行われた発掘調査の担当者を講師として招き、発掘調査から生じたさまざまな「謎」について、調査成果をもとに語っていただきました。

毎回100名近い聴講者があり、4年目を迎えて考古学講座も歴史好きの人達の間で定着してきたようです。



考古学講座Ⅳ第2回風景

回	期 日	演 題	講 師
1	12月 5日 (土)	安芸の渡来系寺院の謎	伊藤 実 (当調査室)
2	12月12日 (土)	山間の前期古墳の謎	沖田健太郎 ((公財) 安芸高田市地域振興事業団)
3	平成28年 1月16日 (土)	最後の前方後円墳の謎	内田 実 (福山市教育委員会)
4	2月20日 (土)	中世の信仰と石造物の謎	梅本健治 (当調査室)
5	3月 5日 (土)	古墳から出土した香炉の謎	濱岡大輔 (NPO広島文化財センター)
6	3月19日 (土)	幕末の動乱と瀬戸内の町屋跡の謎	渡邊昭人 (当調査室)

海田南小学校6年生校外学習

平成27年11月26日(木)

歴史学習の一環として、海田南小学校の6年生3組104名を受け入れました。クラス毎に分かれて整理作業の見学や出土品に触れる体験、古銭の鑄造体験などを行いました。

出土遺物体験

手のひらから伝わる遺物の感触を確かめます



鑄造体験

鑄型に溶かした金属を流し込む…緊張する瞬間です!!

平和大通り青空ギャラリー2016

平成28年1月24日(日)

平和大通り青空ギャラリーは、都道府県対抗広島男子駅伝の応援イベントとして、西区役所前の平和大通り沿いで開催されています。今年度調査室は“むかしのお金をつくってみよう”と題した、「和同開珎」の鑄造で歴史体験を楽しんでいただきました。



どんなふうにとけるのかな～?



和同開珎の
できあがりです



平成27年度 ひろしまの遺跡を語る

鉄の古代史ーひろしまの鉄の歴史ー

平成28年1月23日(土) 広島県民文化センター・ホール

古代の鉄をテーマに3本の講演と座談会を行い、250人を超える来場者がありました。

まず当調査室の伊藤実が日本の鋸の製作技術と歴史について話した後、島根県立古代出雲歴史博物館の角田徳幸さんが古代の製鉄技術について講演を行いました。続いて、比治山大学教授の安間拓巳さんは、古代鍛冶の技術や官営の鍛冶工房の存在の可能性などについて講演を行いました。

講演後の座談会では、来場者の質問をもとに、講師3名が古代の鉄の道具や製鉄・鍛冶技術について意見交換しました。



座談会風景

平成27年度職員研修 文化財調査技術スキルアップ研修 平成28年2月25日(木)

歴史的建造物の部材－調査の視点と方法－

日ごろ発掘調査に明け暮れる毎日を過ごしている調査研究員の調査技術と知識の向上を図るため、2月のシーズンオフにスキルアップ研修を実施しました。

今回は、建築技術史研究所長（元竹中大工道具館学芸部長）の渡邊晶さんを招いて「歴史的建造物の部材」と題して講演していただきました。

渡邊さんには、日本の大工道具には弥生時代の中頃（紀元前2～3世紀）、中世後期（14～15世紀）、江戸後期（18世紀）に大きな画期があること、出土した木材などに残る工具の刃痕から、どんな工具が使われたかがわかることなどをわかりやすく画像を使って説明していただきました。また、たくさんの弥生時代の材木が出土した鳥取県の青谷上寺地遺跡

の事例から、弥生時代にかなり高度な製材技術があったことなどもお話いただき、建築部材の細かな観察から、使われた道具や技術を推定する貴重な知識と方法を学ぶことができました。



渡邊さんの「歴史的建造物の部材」のお話

お知らせ

平成27年度刊行図書のご案内



頒布ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

書 名		市町名	概 要	頒価
埋文報告 第75集	国道313号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（4） 御領遺跡（第6次調査2013）	福山市	県内最大級の弥生～古墳時代の集落遺跡。第6次調査では、弥生～古墳時代の溝状遺構から弥生土器や石器などが大量に出土。	1,000円 (送料別)
活動報告 第5集	平成26年度ひろしまの遺跡を語る 「弥生時代の船」記録集	—	平成25年度の御領遺跡第7次調査で見つかった弥生の船絵画について、深澤芳樹さんの講演と調査室職員の報告及び座談会の全記録。	400円 (送料別)

あとがき

今年度の遺跡見学会には、大変多くの見学者に来ていただきました。特に地元からの参加者が多く、郷土の歴史に関心を持っていただくきっかけとなったのではないかと思います。

来年度も様々な行事を通して、広島県の埋蔵文化財に関する情報を発信していきたいと考えております。

（村田 智子）

（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第115号

発行日 平成28年3月22日
編 集 （公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発 行 （公財）広島県教育事業団
印 刷 株式会社ニシキプリント